

分担研究報告書

新規危険ドラッグの乱用実態把握のための効果的な調査手法の確立

分担研究者：嶋根 卓也（国立精神・神経センター精神保健研究所 薬物依存研究部）
研究協力者：猪浦 智史（国立精神・神経センター精神保健研究所 薬物依存研究部）
山田 理沙（国立精神・神経センター精神保健研究所 薬物依存研究部）

【研究要旨】

【目的】本研究の目的は、薬物使用者が多いレクリエーション・セッティングの一つとして野外フェスティバルの来場者を対象とした調査を通じて、大麻使用者の特徴を明らかにすることである。具体的には、1) 大麻使用とアルコール摂取との関係性を明らかにすること、2) 海外における大麻の合法化（非犯罪化）が、レクリエーション・セッティングの対象者に与える影響を調べることを目的とした。

【方法】対象は、関東地方で開催された音楽関連の野外イベント（野外フェスティバル）に参加した16歳以上の来場者であった。計2回のイベントで、携帯端末やタブレットを活用したオンライン調査を実施し、計437名より有効回答を得た。大麻の使用経験に基づき、大麻使用経験の無いNon-users (n=382)、大麻使用経験はあるが、1年以内の使用がないEx-users (n=44)、過去1年以内に大麻を使用したCurrent-users (n=11)の3群に分類した。

【結果】

3. 飲酒に関する結果は、過去1年間の飲酒率はNon-users (81.4%)、Ex-users (61.4%)、Current-users (100%)であった ($p=0.003$)。過去30日間の飲酒率は、Non-users (68.6%)、Ex-users (54.5%)、Current-users (81.8%)であった ($p=0.102$)。過去30日間のビンジ飲酒率は、Non-users (42.7%)、Ex-users (38.6%)、Current-users (72.7%)であった ($p=0.113$)。
4. 北米における大麻合法化に対する考えは、Non-usersは、「医療目的は賛成だが、嗜好目的は反対」が52.4%と最も多かった。Ex-usersおよびCurrent-usersは「どのような目的でも賛成」という回答が最も多かった (Ex-users : 40.9%、Current-users : 90.9%) ($p<0.001$)。

【結論】過去1年以内に大麻の使用経験を有するCurrent-usersの飲酒率（過去1年間）、飲酒率（過去30日間）、ビンジ飲酒率（過去30日間）は、他の群に比べて高いという結果が得られたが、統計学的に有意な差は検出できなかった。本研究のデータからは大麻使用者におけるアルコール関連の問題性は見いだせなかった。国内の大麻使用者の多くが北米における大麻合法化（医療目的、嗜好目的の両方）に賛同していた。大麻使用経験のない者であっても、大麻の医療目的での利用については賛同していた。

A. 研究目的

近年、危険ドラッグの流行が沈静化する一方で、大麻使用者の増加が報告されている。2019

年に実施された薬物使用に関する全国住民調査によれば、大麻使用の生涯経験率は1.8%（推計値）であり、これは調査が開始された1995年以降で最も高い数字となった¹⁾。調査対象とな

った 15～64 歳の人口に換算すると、生涯経験者数は全国で約 160 万人に該当する。全国住民調査を通じて得られる各種情報は、わが国の薬物使用の動向を把握する上での基礎資料として活用できるが、調査項目が飲酒・喫煙・医薬品の使用状況も含め多岐に渡るため、大麻や危険ドラッグに関して得られる情報は相対的に少ない。

本研究では薬物乱用の実態把握のための効果的な調査手法として、一般住民に比べて薬物使用率が高いことが報告されているレクリエーショナル・セティングに着目した。先行研究においては、ナイトクラブの来場者を対象とした調査により、MDMA に関する乱用実態を報告した²⁾。近年では音楽系の野外フェスティバルの来場者を対象とした調査により危険ドラッグの乱用実態を報告した³⁾。

本研究の目的は、野外フェスティバルの来場者を対象とした調査を通じて、大麻使用者の特徴を明らかにすることである。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、今年度は多くの野外フェスティバルが開催中止となり、新たな情報を収集することができなかった。そこで、今年度は 2018 年度および 2019 年度に取得したデータを再分析し、大麻使用実態に関する新たな知見を得ることを目的とした。

第一の目的は、大麻使用とアルコール摂取との関係性を明らかにすることである。大麻は、高頻度でアルコールと一緒に使われることがある⁴⁾。米国の若年層を対象とした調査によれば、19～30 歳の飲酒者のうち、約 20-30%が過去 1 年以内に大麻との同時使用 (simultaneous alcohol and marijuana use) を経験していることが報告されている⁵⁾。若年期に大麻とアルコールを同時に使うことは、成年期において薬物依存と診断されるリスクが上昇し、高校を退学するリスクが上昇するなどのネガティブな結果につながる事が報告されている⁶⁻¹⁰⁾。そこで、本研究では飲酒経験のみならず、アルコール急性中毒や違法薬物使用との関連が指摘されているビンジ飲酒 (Binge drinking)^{11,12)} や、飲酒衝動が高まる事が指摘されているエナジー

ドリンクとアルコールとのカクテル (alcohol mixed with energy drinks :AmED)¹³⁾ についても調査し、大麻使用との関係を調べる。

第二の目的は、海外における大麻の合法化 (非犯罪化) が、レクリエーショナル・セティングの対象者に与える影響を調べることである。大麻は国際条約 (麻薬に関する単一条約) で規制されている薬物であるが、各国の規制状況はまちまちである。医療用大麻としての利用を認めている国もあれば、カナダのように嗜好目的での使用を認めている国もある。わが国の一般住民調査では、若年層を中心に、「大麻を使うことは個人の自由である」のように大麻使用を肯定する考えを持つ者が増加している¹⁾。一方、大麻の単純所持により検挙された者を対象とした調査によれば、「大麻が合法的な国がある」ことが大麻の危険性を軽視する理由で最も多いことが報告されている¹⁴⁾。そこで本研究では、北米における大麻合法化 (医療目的、嗜好目的の両面) に対する考えについて、大麻使用者と非使用者を比較することを目的とした。

B. 研究方法

1. 対象者

対象は、関東地方で開催された音楽関連の野外イベント (野外フェスティバル) に参加した 16 歳以上の来場者 437 名である。調査は、2018 年 9 月および 2019 年 9 月の 2 回実施した。なお、調査を実施したイベントの開催場所や内容は異なる。

2. 調査方法

調査は無記名の自記式調査によって行われた。まず、調査実施にあたり、イベント主催者の了承を得た上で、イベント会場にブースを設営した (プロジェクト名 : One Love Online)。次に、事前にトレーニングを受けたスタッフが来場者に対して、薬物乱用・依存の予防啓発および薬物依存症の理解を訴えながらチラシを配布し、アンケートへの参加を呼びかけた。アンケート参加を希望する来場者は、チラシに書か

れた QR コードを携帯電話・スマートフォンから読み取り、アンケートサイトに誘導した(図 1)。携帯電話を持っていない場合や、QR コードを読み取れない場合は、ブースに設置されたタブレット端末を使って回答を求めた。

回答者へのインセンティブとして、調査終了画面をイベント会場内の出展ブースで提示した回答者には、謝礼品(音楽 CD や野外イベントに関するグッズ)を手渡した。また、ダルクなどの民間支援団体に関するパンフレットや、依存症の理解を促進するための啓発資材も併せて配布した。

本研究では、イベント会場内(あるいは店舗)で調査実施の案内チラシを受け取った来場者が、自由意思に基づき調査システムにアクセスするという「応募法」を採用しており、「案内チラシを受け取らない」、「チラシを受け取ったとしても自ら調査システムにアクセスしない」という形で拒否機会が担保されている。また、「アンケートへの回答は任意であること」、「回答途中でも回答をやめることができること」を調査画面に明記することで、「拒否機会の担保」をより確実にした。

なお、研究実施にあたり、国立精神・神経医療研究センター倫理委員会の承認を得た(承認番号 A2015-025)。

3. インターネット・セキュリティ

本研究におけるオンライン調査のシステム開発は、株式会社マイ・ビジネスサービス(以下、MBS)に委託した。MBS は、以下の手順でインターネット上のセキュリティを確保した。本研究で用いる web 上の調査システムは、Hypertext Transfer Protocol (HTTP) を Secure Socket Layer (SSL) で保護することによって、研究対象者が回答したデータを暗号化してサーバーに送信し、情報漏洩防止策とした。サイトの構築、収集データの際には、File Transfer Protocol (FTP) での接続を許可し、主に SSL で保護された FTP over SSL (FTPS) で暗号化してサーバーに接続を行った。ただし、開発元でも管理者 ID を発行して ID 保持者のみがサーバー

へアクセス可能なように制限した。インターネットとサーバーの間にサービス提供内のプロトコル以外で不正なパケットの転送がないよう Firewall で適切なブロックを行った。

研究に用いるサーバーは、MBS が外部サーバー会社と契約している OEM サーバーを使用した。このサーバーは、Redundant Array of Inexpensive Disks (RAID) 機能を有しており、不測の事態によりサーバーのディスクが停止した場合も代替ディスクによりシステムが正常に稼動するように配慮した。なお、サーバーが設置されている建物へのアクセスは厳重な入室管理チェックによってセキュリティが保たれていた。消火設備にはハロゲン消火装置が設置され、その他にも、EIA 規格の 19 インチラックの使用、電源系統の多重化、センター内のバッテリー、非常用発電機設備、精密な空調管理と耐震設備により安全な運用を行った。サーバーの稼動状況を監視するため、専用の監視サーバーを構築した。また、死活監視及びサービス監視を行い、サーバー監視により機器異常を検知した場合は、外部サーバー会社から MBS に速やかに警告メールが送信される体制とした。

同一対象者による重複回答を防止するために、Cookie 機能を用いて、ブラウザの Cookie 情報にユニーク ID と各設問の回答状況を保持することにより、同一端末の同一ブラウザによる回答は、調査期間中 1 回のみ可能とした。また、次のページへ遷移するたびにユニーク ID をアンケートシステム側がチェックすることによって、アンケートの最初のページへ 1 回もアクセスしていない場合に、途中ページへ直接アクセスすることを防止した。

4. 調査項目

1) 大麻使用

大麻使用に関する情報は、生涯経験(一度も使ったことがない、1 回使用、数回使用、数え切れないくらい使用の 4 段階)、過去 1 年経験(あり、なし)を尋ねた。2 つの変数を合成し、計 437 名の対象者を大麻使用経験の無い Non-users (n=382)、大麻使用経験はあるが、1 年以

内の使用がない Ex-users (n=44)、過去 1 年以内に大麻を使用した Current-users (n=11) の 3 群に分類した。

2) アルコール使用

アルコール使用に関する情報は、過去 1 年飲酒経験 (あり、なし)、過去 30 日間の飲酒頻度 (0 日、1~2 日、3~5 日、6~9 日、10~19 日、20~29 日、毎日の 7 段階)、過去 30 日間のビンジ飲酒の頻度 (0 日、1~2 日、3~5 日、6~9 日、10~19 日、20~29 日、毎日の 7 段階)、エナジードリンクとアルコールを混ぜたカクテル (以降、エナジーカクテルと表記) の生涯使用経験 (一度もない、1 回、数回、数え切れないの 4 段階) を尋ねた。

なお、ビンジ飲酒については、米国の薬物乱用・精神衛生管理庁 (Substance Abuse and Mental Health Services Administration) によって、Binge drinking を「一回の飲酒機会 (例えば、2 時間くらいの飲み会で) に、多くのお酒 (男性の場合は 5 杯以上、女性の場合は、4 杯以上) を飲むこと」と定義されており、この定義を採用した。

3) 大麻の合法化に対する考え

大麻の合法化に対する考えについては、「アメリカの一部の州や、カナダでは、大麻の医療目的での使用や、嗜好目的 (レクリエーション) での使用が合法化される動きがあります。これについて、あなたはどのように考えますか?」という質問をした。回答は、「どのような目的でも反対」、「医療目的は賛成だが、嗜好目的は反対」、「医療目的は反対だが、嗜好目的は賛成」、「どのような目的でも賛成」、「いずれも当てはまらない」から 1 つを選択する形式をとった。

4) その他

その他、基本属性として、性別、年齢、関連項目として、喫煙経験 (過去 1 年、過去 30 日)、エナジードリンク使用 (過去 30 日)、CBD 製品の使用経験について尋ねた。

5. 統計解析

大麻の合法化に対する考えを除くカテゴリカル変数については、回答を「あり」「なし・不明」の二値に再分類した。不明回答や無効回答は「なし」に含めた。

すべての変数について、大麻使用群 (Non-users、Ex-users、Current-users) とクロス集計を行った。群間の有意差検定は、量的変数については t 検定を、カテゴリカル変数についてはフィッシャーの直接確率法を用いた。さらに、各項目の調整済み残差を計算し、絶対値 1.96 を基準に有意差を判定した。

C. 研究結果

1. 記述統計の結果

対象者の基本属性について、平均年齢は、Non-users (41.9 歳)、Ex-users (42.1 歳)、Current-users (38.6 歳) であった。性別は、男性が占める割合が Non-users (43.5%)、Ex-users (84.1%)、Current-users (63.6%) であった。

飲酒に関する結果は、過去 1 年間の飲酒率は Non-users (81.4%)、Ex-users (61.4%)、Current-users (100%) であった。過去 30 日間の飲酒率は、Non-users (68.6%)、Ex-users (54.5%)、Current-users (81.8%) であった。過去 30 日間のビンジ飲酒率は、Non-users (42.7%)、Ex-users (38.6%)、Current-users (72.7%) であった。

喫煙に関する結果は、過去 1 年間の喫煙率は Non-users (20.9%)、Ex-users (56.8%)、Current-users (90.9%) であった。過去 30 日間の喫煙率は、Non-users (19.1%)、Ex-users (54.5%)、Current-users (81.8%) であった。

エナジードリンクに関する結果は、過去 30 日間のエナジードリンク使用率は、Non-users (24.6%)、Ex-users (34.1%)、Current-users (18.2%) であった。エナジーカクテルの使用率 (生涯) は、Non-users (5.5%)、Ex-users (20.5%)、Current-users (18.2%) であった。

CBD 製品の使用率は、Non-users (2.4%)、Ex-users (27.3%)、Current-users (36.4%) であった。北米における大麻合法化に対する考えは、Non-

users においては、「医療目的は賛成だが、嗜好目的は反対」が 52.4%と最も多かった。Ex-users および Current-users は「どのような目的でも賛成」という回答が最も多かった (Ex-users : 40.9%、Current-users : 90.9%)。

2. 群間比較の結果

フィッシャーの直接確率法により、性別 ($p<0.001$)、過去 1 年間の飲酒率 ($p=0.003$)、過去 1 年間の喫煙率 ($p<0.001$)、過去 30 日間の喫煙率 ($p<0.001$)、エナジーカクテルの使用率 ($p=0.001$)、CBD 製品の使用率 ($p<0.001$)、北米における大麻合法化に対する考え ($p<0.001$) の 7 項目について有意差が認められた。一方、過去 30 日間の飲酒率 ($p=0.102$)、過去 30 日間のビンジ飲酒率 ($p=0.113$)、過去 30 日間のエナジードリンク使用率 ($p=0.350$) については群間に有意差は認められなかった。

次に、残差分析による群間比較を行ったところ、男性の比率は、Non-users が有意に低く、Ex-users が有意に高かった。過去 1 年間の飲酒率は、Non-users が有意に高く、Ex-users が有意に低かった。

喫煙率は、過去 1 年間および過去 30 日間のいずれも、Non-users が有意に低く、Ex-users および Current-users が有意に高かった。

エナジーカクテルの使用率は、Non-users が有意に低く、Ex-users が有意に高かった。

CBD 製品の使用率は、Non-users が有意に低く、Ex-users および Current-users が有意に高かった。北米における大麻合法化に対する考えは、Non-users は「どのような目的でも反対」「医療目的は賛成だが、嗜好目的は反対」が有意に多く、Ex-users は「医療目的は反対だが、嗜好目的は賛成」「どのような目的でも賛成」が有意に多く、Current-users は「どのような目的でも賛成」が有意に多かった。

D. 考察

本研究では、レクリエーション・セッティングの一つとして音楽関連の野外イベント（野

外フェスティバル）の来場者を対象とした実態調査を通じて、大麻使用者の特徴を明らかにすることを目的とした。

第一の目的であった大麻使用とアルコール摂取との関係性については、飲酒率（過去 1 年間）、飲酒率（過去 30 日間）、ビンジ飲酒率（過去 30 日間）のいずれも、3 群の中で Current-users の経験率が最も高いという結果が得られたが、統計学的に有意な差は検出できなかった。したがって、本研究のデータからは、大麻使用者は非使用者に比べて、飲酒頻度が高かったり、ビンジ飲酒などリスクの高いアルコール摂取をしたりといったアルコール関連の問題性は見いだせなかった。群間の有意差を検出できなかった背景として、Current-users のサンプルサイズが小さいことが影響していると考えられる。今後の研究としては、Current-users の対象者数をさらに増やした上で改めて分析を行うなどの検討を要する。

エナジーカクテルの摂取については、Current-users、Ex-users の両群が Non-users に比べ高いという結果が得られている。ただし、エナジーカクテルの摂取については生涯経験を尋ねており、必ずしも直近の経験を反映しておらず、横断的に得られたデータで、大麻使用との関係性を説明することは難しい。

先行研究において、ビンジ飲酒は、危険運転に関連することが報告されている¹⁵⁾。また、大麻とアルコールとの併用は、運転への影響を悪化させることが指摘されている¹⁶⁾。さらには、米国アリゾナ州の受傷者を対象とした調査によれば、16~20 歳の若年受傷者の約 4 人に 1 人が、アルコール、THC、あるいはその両者の物質に陽性反応がみられたことが報告¹⁷⁾されている。このように大麻使用とアルコール摂取の間には関連性があり、今後も国内データを使って、両者の関係性を調べていくことが必要である。

第二の目的であった海外における大麻の合法化（非犯罪化）が、レクリエーション・セッティングの対象者に与える影響であるが、大麻使用経験のある Ex-users および Current-users

は、医療目的であっても、嗜好目的であっても大麻を合法化しているカナダやアメリカの動きに賛同する割合が Non-users よりも有意に高いという結果が得られた。これは自らの大麻の使用経験を報告している対象者としては当然の結果といえる。一方、大麻の使用経験のない Non-users においては、「医療目的は賛成だが、嗜好目的は反対」という回答が最も多いという結果が得られた。近年、海外では大麻由来の医薬品として、Sativex®、Epidiolex®といった医薬品が承認されている。本研究の結果は、大麻使用経験のない者であっても、大麻を医薬品として活用していくことに対しては半数以上が賛成していることを意味する。もちろん、本研究はレクリエーション・セティングにおける一部の来場者のみを対象とした調査であり、対象者に代表性はない。今後は、一般住民調査など代表性のある集団において同様の調査をしていくことが必要と考えられる。

E. 結論

本研究では、大麻使用者の特徴を明らかにすることを目的として、レクリエーション・セティングの一つとして音楽関連の野外イベント（野外フェスティバル）の来場者を対象とした実態調査を実施し、次の知見を得た。

1) 過去 1 年以内に大麻の使用経験を有する Current-users の飲酒率（過去 1 年間）、飲酒率（過去 30 日間）、ビンジ飲酒率（過去 30 日間）は、他の群に比べて高いという結果が得られたが、統計学的に有意な差は検出できなかった。本研究のデータからは大麻使用者におけるアルコール関連の問題性は見いだせなかった。

2) 国内の大麻使用者の多くが北米における大麻合法化（医療目的、嗜好目的の両方）に賛同していた。大麻使用経験のない者であっても、大麻の医療目的での利用については賛同していた。

F. 参考文献

- 1) 嶋根卓也, 猪浦智史, 邱冬梅, 和田清: 薬物使用に関する全国住民調査 (2019 年) . 令和元年度厚生労働行政推進調査事業費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業「薬物乱用・依存状況の実態把握と薬物依存症者の社会復帰に向けた支援に関する研究 (研究代表者: 嶋根 卓也)」分担研究報告書, pp19-120, 2020.
- 2) Shimane T, Hidaka Y, Wada K, Funada M: Ecstasy (3, 4-methylenedioxymethamphetamine) use among Japanese rave population, *Psychiatry and Clinical Neurosciences*. 67:12-19,2013.
- 3) 山田理沙, 嶋根卓也, 船田正彦: レクリエーション・セティングにおける危険ドラッグ使用パターンの男女別検討、*日本アルコール・薬物医学会雑誌* 54 (6) ,272-285, 2020.
- 4) Subbaraman MS, Kerr WC. Simultaneous versus concurrent use of alcohol and cannabis in the National Alcohol Survey. *Alcohol Clin Exp Res*. 2015 May;39 (5) :872-9. doi: 10.1111/acer.12698. PMID: 25872596; PMCID: PMC4399000.
- 5) Terry-McElrath YM, Patrick ME. Simultaneous Alcohol and Marijuana Use Among Young Adult Drinkers: Age-Specific Changes in Prevalence from 1977 to 2016. *Alcohol Clin Exp Res*. 2018 Nov;42 (11) :2224-2233. doi: 10.1111/acer.13879. Epub 2018 Sep 14. PMID: 30277588; PMCID: PMC6214706.
- 6) Green KM, Musci RJ, Johnson RM, Matson PA, Reboussin BA, Ialongo NS. Outcomes associated with adolescent marijuana and alcohol use among urban young adults: A prospective study. *Addict Behav*. 2016 Feb;53:155-60. doi: 10.1016/j.addbeh.2015.10.014. Epub 2015 Oct 23. PMID: 26517712; PMCID: PMC4679455.
- 7) Lee CM, Patrick ME, Fleming CB, Cadigan JM, Abdallah DA, Fairlie AM, Larimer ME. A

- Daily Study Comparing Alcohol-Related Positive and Negative Consequences for Days With Only Alcohol Use Versus Days With Simultaneous Alcohol and Marijuana Use in a Community Sample of Young Adults. *Alcohol Clin Exp Res.* 2020 Mar;44 (3) :689-696. doi: 10.1111/acer.14279. Epub 2020 Feb 5. PMID: 32022945; PMCID: PMC7306057.
- 8) Midanik LT, Tam TW, Weisner C. Concurrent and simultaneous drug and alcohol use: results of the 2000 National Alcohol Survey. *Drug Alcohol Depend.* 2007 Sep 6;90 (1) :72-80. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2007.02.024. Epub 2007 Apr 18. PMID: 17446013; PMCID: PMC2043125.
- 9) Shillington AM, Clapp JD. Substance use problems reported by college students: combined marijuana and alcohol use versus alcohol-only use. *Subst Use Misuse.* 2001 Apr;36 (5) :663-72. doi: 10.1081/ja-100103566. PMID: 11419493.
- 10) Stein MD, Caviness CM, Anderson BJ. Alcohol use potentiates marijuana problem severity in young adult women. *Womens Health Issues.* 2014 Jan-Feb;24 (1) :e77-82. doi: 10.1016/j.whi.2013.10.005. PMID: 24439950; PMCID: PMC3896888.
- 11) Loheswaran G, Barr MS, Rajji TK, Blumberger DM, Le Foll B, Daskalakis ZJ. Alcohol Intoxication by Binge Drinking Impairs Neuroplasticity. *Brain Stimul.* 2016 Jan-Feb;9 (1) :27-32. doi: 10.1016/j.brs.2015.08.011. Epub 2015 Aug 28. PMID: 26433610.
- 12) Raposo JCDS, Costa ACQ, Valença PAM, Zarzar PM, Diniz ADS, Colares V, Franca CD. Binge drinking and illicit drug use among adolescent students. *Rev Saude Publica.* 2017 Sep 4;51:83. doi: 10.11606/S1518-8787.2017051006863. PMID: 28876411; PMCID: PMC5574466.
- 13) McKetin R, Coen A. The effect of energy drinks on the urge to drink alcohol in young adults. *Alcohol Clin Exp Res.* 2014 Aug;38 (8) :2279-85. doi: 10.1111/acer.12498. Epub 2014 Jul 17. PMID: 25041069.
- 14) 警察庁：大麻乱用者の実態に関する調査結果. NEWS LETTER KNOW, 麻薬・覚醒剤乱用防止センター、2020.
- 15) Vaca FE, Li K, Luk JW, Hingson RW, Haynie DL, Simons-Morton BG. Longitudinal Associations of 12th-Grade Binge Drinking With Risky Driving and High-Risk Drinking. *Pediatrics.* 2020 Feb;145 (2) :e20184095. doi: 10.1542/peds.2018-4095. Epub 2020 Jan 6. PMID: 31907291; PMCID: PMC6993274.
- 16) Hartman RL, Huestis MA. Cannabis effects on driving skills. *Clin Chem.* 2013 Mar;59 (3) :478-92. doi: 10.1373/clinchem.2012.194381. Epub 2012 Dec 7. PMID: 23220273; PMCID: PMC3836260.
- 17) Shults RA, Jones JM, Komatsu KK, Sauber-Schatz EK. Alcohol and marijuana use among young injured drivers in Arizona, 2008-2014. *Traffic Inj Prev.* 2019;20 (1) :9-14. doi: 10.1080/15389588.2018.1527032. Epub 2019 Jan 25. PMID: 30681899; PMCID: PMC7042953.

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Shimane T, Takahashi M, Kobayashi M, Takagishi Y, Takeshita Y, Kondo A, Omiya S, Takano Y, Yamaki M, Matsumoto T. Gender differences in the relationship between methamphetamine use and high-risk sexual behavior among prisoners: A nationwide, cross-sectional survey in Japan. *Journal of Psychoactive Drugs*, 2021. (in press)
2. Kondo A, Shimane T, Takahashi M, Takeshita Y, Kobayashi M, Takagishi Y, Omiya S, Takano Y, Yamaki M, Matsumoto T. Gender Differences in Triggers of Stimulant Use Based on the National

- Survey of Prisoners in Japan. *Subst Use Misuse*. 2021;56 (1) :54-60. doi: 10.1080/10826084.2020.1833930. Epub 2020 Oct 24. PMID: 33100112.
3. Inoura S, Shimane T, Kitagaki K, Wada K, Matsumoto T. Parental drinking according to parental composition and adolescent binge drinking: findings from a nationwide high school survey in Japan. *BMC Public Health*. 2020;20 (1) :1878. <http://doi.org/10.1186/s12889-020-09969-8>.
 4. Yamada R, Shimane T, Kondo A, Yonezawa M, Matsumoto T. The relationship between severity of drug problems and perceived interdependence of drug use and sexual intercourse among adult males in drug addiction rehabilitation centers in Japan. *Subst Abuse Treat Prev Policy*. 2021 Jan 7;16 (1) :5. doi: 10.1186/s13011-020-00339-6. PMID: 33413509; PMCID: PMC7791778.
 5. Matsumoto T, Kawabata T, Okita K, Tanibuchi Y, Funada D, Murakami M, Usami T, Yokoyama R, Naruse N, Aikawa Y, Furukawa A, Komatsuzaki C, Hashimoto N, Fujita O, Umemoto A, Kagaya A, Shimane T. Risk factors for the onset of dependence and chronic psychosis due to cannabis use: Survey of patients with cannabis-related psychiatric disorders. *Neuropsychopharmacol Rep*. 2020 Dec;40 (4) :332-341. doi: 10.1002/npr2.12133. Epub 2020 Sep 7. PMID: 32896111; PMCID: PMC7722680.
 6. Takeshima M, Otsubo T, Funada D, Murakami M, Usami T, Maeda Y, Yamamoto T, Matsumoto T, Shimane T, Aoki Y, Otowa T, Tani M, Yamanaka G, Sakai Y, Murao T, Inada K, Yamada H, Kikuchi T, Sasaki T, Watanabe N, Mishima K, Takaesu Y. Does cognitive behavioral therapy for anxiety disorders assist the discontinuation of benzodiazepines among patients with anxiety disorders? A systematic review and meta-analysis. *Psychiatry Clin Neurosci*. 2021 Jan 15. doi: 10.1111/pcn.13195. Epub ahead of print. PMID: 33448517.
 7. 嶋根卓也, 邱 冬梅, 和田 清: 日本における大麻使用の現状: 薬物使用に関する全国住民調査 2017 より, *YAKUGAKU ZASSHI*, 140 (2) ,173-178, 2020.
 8. 嶋根卓也. 薬物乱用状況のアップデート: 薬物使用に関する全国住民調査 2019 より. *Newsletter KNOW (麻薬・覚せい剤乱用防止センター)*, 第 103 号, p2-5,2020.
 9. 嶋根卓也: 薬物依存症者の理解とサポート, *法律のひろば* 74 (1) , 57-66, 2021.
 10. 嶋根卓也: 薬物乱用防止のために地域の薬局ができること, *調剤と情報* 27 (1) , 89-96,2021.
 11. 嶋根卓也: 第 8 章 性的マイノリティ・HIV 感染者の理解と支援. 物質使用障害の治療 多様なニーズに応える治療 回復支援 (松本俊彦編著), 金剛出版, 東京, pp141-155, 2020.
 12. 嶋根卓也: 第 12 章 薬物乱用防止教育とステイグマ. *アディクション・スタディーズ* 薬物依存症を捉えなおす 13 章 (松本俊彦編), 日本評論社, pp201-214, 2020.
 13. 山田理沙, 嶋根卓也, 船田正彦: レクリエーション・セッティングにおける危険ドラッグ使用パターンの男女別検討, *日本アルコール・薬物医学会雑誌* 54 (6) , 272-285, 2020.
 14. 谷真如, 高野洋一, 高宮英輔, 嶋根卓也: 覚せい剤取締法違反により刑事施設に入所した刑の一部執行猶予者の心理・社会的特徴, *犯罪心理学研究*, 57 (2) , 1-15, 2020.
2. 学会発表
 1. Yamada, R., Shimane T, Kondo, A., Yonezawa, M. and Matsumoto, T. The relationship between the perception of “drugs–sex connection” with unprotected sex behavior in rehabilitation centers for drug addiction in Japan. the CINP 2021 Virtual World Congress, 26-28 February,2021.
 2. 嶋根卓也, 小林美智子, 高橋哲, 竹下賀子,

- 高岸百合子、大宮 宗一郎、近藤あゆみ、高野洋一、山木麻由子、松本俊彦：ミニセッション S5「覚せい剤事犯者の理解とサポート：性差に着目した分析、覚せい剤事犯者における薬物依存症の重症度と再犯との関連：性差に着目した分析. 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, Web, 2020.11-22-23.
3. 嶋根卓也：シンポジウム 4「オピオイド鎮痛薬、乱用のその先」、仲間と共に回復する薬物依存-ダルク追っかけ調査より-. 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, Web, 2020.11-22-23.
 4. 嶋根卓也：シンポジウム 6「HIV 感染症と薬物使用（依存）の予防」, Understanding and supporting drug users with HIV infection in Japan. 第 34 回日本エイズ学会学術集会, Web, 2020.11.27-29.
 5. 児玉知子, 大澤絵里, 浅見真理, 戸次香奈江, 松岡佐織, 嶋根卓也, 松本俊彦, 三浦宏子, 樺田尚樹, 横山徹爾：日本における Universal Health Converge の達成状況と課題. 第 35 回日本国際保健医療学会学術大会日本国際保健医療学会, Web 2020.11.1-3.
 6. 高岸百合子、嶋根卓也、小林美智子、高橋哲、竹下賀子、大宮 宗一郎、近藤あゆみ、高野洋一、山木麻由子、松本俊彦：ミニセッション S5「覚せい剤事犯者の理解とサポート：性差に着目した分析、覚せい剤事犯者が自覚している薬物使用の引き金とメリット・デメリットとの関連. 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, Web, 2020.11-22-23.
 7. 近藤あゆみ、嶋根卓也、高橋哲、小林美智子、高岸百合子、大宮 宗一郎、高野洋一、山木麻由子、松本俊彦：ミニセッション S5「覚せい剤事犯者の理解とサポート：性差に着目した分析、覚せい剤事犯女性の出所後の薬物依存症治療. 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, Web, 2020.11-22-23.
 8. 引土絵未、嶋根卓也、小高真美、ほか：薬物依存症者の就労に関する研究：特例子会社を対象とした依存症者の就労に関する意識調査, 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, Web, 2020.11-22-23.
 9. 大宮宗一郎, 嶋根卓也, 近藤あゆみ, 高岸百合子, 小林美智子, 酒谷徳二, 服部真人, 喜多村真紀, 伴恵理子：薬物関連問題と飲酒問題を有する覚せい剤事犯者の特徴: 信頼感に注目した分析から. 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 福岡, 2020.11.21-22.
 10. 小林美智子、服部真人、酒谷徳二、嶋根卓也、谷真如、高橋哲、大宮宗一郎：薬物依存、アルコール依存、ギャンブル障害の各問題から見た覚醒剤事犯受刑者の特徴, 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, Web, 2020.11-22-23.
 11. 猪浦智史、加藤隆、嶋根卓也：薬物依存症回復支援施設における生活習慣病予防教室の試み. 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, Web, 2020.11-22-23.
 12. 服部真人、小林美智子、嶋根卓也、高橋哲、高岸百合子、大宮宗一郎、谷真如：薬物依存と他の依存（アルコール・ギャンブル）の併存が疑われる薬物事犯者の特徴. 第 58 回日本犯罪心理学会, Web, 2020.11.21-22.
 13. 山田理沙、嶋根卓也、近藤あゆみ、米澤雅子、松本俊彦：薬物依存症者を対象とした薬物使用の影響によるコンドームを使用しない性交渉に関連する研究. 第 34 回日本エイズ学会学術集会, Web, 2020.11.27-29.
- J. 知的財産権の出願・登録状況**
- 特許取得、実用新案登録、その他
特になし。